

「ユニークベニュー HANDBOOK 博物館・美術館編」



ユニークベニュー利用促進協議会

ユニークベニューは「特別な場所×イベント」で
「特別な体験」を創造していく取り組みです。



写真提供：東京国立博物館

▶▶▶ 詳しくはP10へ

エントランス × レセプション 東京国立博物館

日本で最も歴史のある博物館「東京国立博物館」では、文化的価値の高い建物を利用して、レセプションやファッションショーをはじめ、斬新なイベントを数多く開催しています。多くの参加者に、施設の魅力を知らしてもらいかけにもなっています。

展示室 × コンサート 国立科学博物館

国内最大級の総合科学博物館「国立科学博物館」では、展示室やホール、講堂などを積極的に貸し出しています。迫力のある化石標本を見ながら聴くコンサートは、参加者に非日常的な体験を提供し、普段とは異なる施設の魅力を引き出しています。



写真提供：国立科学博物館

▶▶▶ 詳しくはP11へ

目次

序章

・博物館・美術館の皆さまへ……………2

【第1部・入門】

ユニークベニューとしての施設活用を、多くの事例とともに紹介します。

第1章 ユニークベニューとは

・博物館・美術館を“特別な場所”として……………7
・先駆的な事例……………10
・私の考えるユニークベニュー……………12

第2章 ユニークベニュー・ケーススタディ

・都市の活性化、地域振興に資するユニークベニュー活用（三菱一号館美術館）……………16
・新たな来館客層を呼び込む、ユニークベニュー活用（国立新美術館）……………21
・施設・主催者共創による、価値向上を目指したユニークベニュー活用（日本科学未来館）……………25
・寺社という文化財を通じて、日本らしさを伝えるユニークベニュー活用（増上寺）【参考】……………26
・海外におけるユニークベニュー活用の取り組み（ロンドン自然史博物館）……………28

第3章 イベント開催までのステップ

・問合せからイベント開催までの流れ……………30
・利用者の問合せから取り次ぎ……………31
・企画内容の確認から申込……………32
・イベント準備……………33
・イベント実施……………34
・事後確認……………35

【第2部・実績】

ユニークベニューとしての貸出条件の設定、情報提供等の実績を解説します。

第1章 貸出条件等の設定

・受入体制の構築……………38
・貸出のための条件設定……………40
・貸出関係書類サンプル……………43

第2章 情報提供事例

・情報提供の方法……………53
・情報提供事例（東京国立博物館、国立科学博物館）……………54

第3章 海外事例

・ユニークベニュー施設事例……………59
・ユニークベニューのワンストップ窓口事例……………60

第4章 Q&A

・Q&A……………62

カフェ × トークサロン 三菱一号館美術館

赤レンガの瀟灑な洋風建築が印象的な三菱一号館美術館では、カフェスペース等を活用し、地域協議会主催のトークサロンとともに、ワインや軽食を提供するパーティ等を開催。まちの交流拠点として、地域振興に資する美術館を目指しています。



▶▶▶ 詳しくはP16へ



写真提供：ロンドン自然史博物館

ホール × ディナーパーティ ロンドン自然史博物館

ユニークベニューの利用が一般的ないギリスにおいて、高い人気を誇る国内最大の自然史博物館です。恐竜の全身骨格が印象的なセントラルホールをはじめ、3つのスペースを開放しており、年間約3億円の収入をあげています。

▶▶▶ 詳しくはP28へ

都市の活性化、地域振興に資するユニークベニュー活用



大丸有まちづくり協議会
設立 25 周年イベント
×
三菱一号館美術館

【東京・千代田区丸の内】

2010 年春、東京・丸の内開館。丸の内駅南口 5 分、19 世紀後半から 20 世紀前半の近代美術を直観する企画展を年 3 回開催。約 2 万の来館者は、三菱が 1894 年に建築した「三菱一号館」（コンドミニアム）を貸出したものです。
(延床面積：約 6,000 ㎡)

● イベント実施のポイント

日本のビジネスの中心地において、都市の魅力の発信と、まちの交流拠点としての「地域振興」に資するモデルイベントを開催しました。また、カフェの利用をはじめ、貸出経験のなかった展示室や廊下部のアトラクションなど、全館を活用した実践的なプログラムを実施しました。

● イベント概要

2013 年 11 月 18 日、東京駅周辺に広がる大手町・丸の内・有楽町（以下、大丸有）地区の地元地産者等で構成される大丸有まちづくり協議会は、ホレンガの併館「三菱一号館美術館」の休館日を利用して、「大丸有まちづくり協議会設立 25 周年イベント」を実施しました。

● イベント参加者 (143 名)

大丸有地区の博物館・美術館関係者、企業、行政、コンベンション・旅行業界関係者、大学関係者等

● プログラム概要

プログラムの第 1 部では、都市の交流や都市の創造力、文化についてのトークサロンを実施。第 2 部では、美術館所蔵のコレクション展『三菱一号館美術館名品選 2013』の自由観覧、展示室において日本伝統芸能を披露し、さらにカフェでパーティを行いました。

【第 1 部】トークサロン (Café1894)	
16:30-18:10	主催者挨拶、基調講演、座談会
【第 2 部】美術鑑賞・エンターテインメント	
18:10-20:00	美術展覧 (3 階/2 階展示室)
	伝統芸能披露 (3 階展示室)
	ドリンク提供 (1 階/2 階廊下部)
	ジャズライブ (1 階廊下部)
	パーティ (Café1894)



● 実施内容

カフェ、通路、展示室など全館を活用して、非日常的な空間を演出

3 階 展示室 (フロア③)
グラフィック作品のコレクションが主なる展示空間で、開館以来初となる、日本の伝統芸能である舞の演習と日本舞踊、歌舞伎浄瑠璃を披露。東洋・西洋の融合をテーマにした大丸有地区の美術館ならではの併しに、参加者は特別な一夜を体験しました。

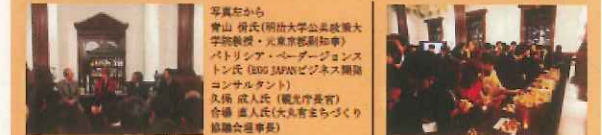
3 階/2 階 展示室 (フロア③～④)
参加者は、3 階から 2 階の展示室を鑑賞し、パーティ会場へ向かいました。

1 階 廊下部 (フロア①)
ドリンクを提供し、同時にジャズライブが楽しめるスペースとなりました。

1 階/2 階 廊下部 (フロア①②)
展示室の外の廊下部にて、ドリンクを提供。展示室内への持ち込みは不可となりました。

Café1894 (フロア②)

1894 年の建築当時、銀行営業室として使われていたカフェにてトークサロンとパーティを開催。



第 1 部のトークサロンでは、「大丸有地区に期待する都市交流・創造・文化力」をテーマに、明治大学 青山教授の基調講演を行いました。続く座談会では、「都心の魅力-東京そして大丸有地区-」をテーマに、世界の都市との比較も含めて、日本の都市の魅力について議論が交わされました。

第 2 部のパーティでは、ワインやジュース等のドリンクとともに、軽食を提供。参加者は交流のひとつを楽しみました。

第 3 章 イベント開催までのステップ

問合せからイベント開催までの流れ

準備 貸出スペースの検討

講堂やホールのほか、エントランスやロビー、中庭、展示室など、施設の中での場所が貸出可能か調べてみてください。施設の中で特徴的な空間は、ユニークベニューとして最適な場所といえます。

STEP 1 利用者の問合せから返す約

● 利用者の例

- 広告代理店 / 旅行代理店
- イベント企画会社、PCO (国際会議等の企画・運営会社)
- DMC (施設活用を目的としたイベント等の企画・運営会社)
- コンベンション・ビューロー
- 一般企業・団体

空間やコレクション等、施設に魅力を感じた利用者が問合せをします

STEP 2 企画内容の確認から申込

● 企画内容確認のポイント

- 企画費もリスクと借金の観点から確認
- 「できること」と「できないこと」等の条件を事前に利用者に伝達

「目的は?」「内容は?」「貸出スペースは?」…企画内容を精査しましょう

STEP 3 イベント準備

● 準備のポイント

- 学芸員等の専門知識による事前確認
- 運営マニュアルの確認 (安全面を最優先して簡潔かつ収容人数も確認)

貸出条件と照らし合わせ、具体的に打ち合わせを進めましょう

STEP 4 イベント実施

● 実施のポイント

- スムーズな部署・イベント実施のための代理店や運営会社等との連携・フォロー
- 建物や展示物の安全管理
- 施設としての参加者へのホスピタリティ

現場で目を配りながら、本番中に発生する問題を逐次解決しましょう

STEP 5 事後確認

● 事後のポイント

- 利用者から届出される実施報告書の確認
- 広報素材としての写真・映像記録

実施報告書を精査し、写真等の広報素材を積極的に活用しましょう

第 4 章 Q&A

Q 国際会議等を受け入れる場合、1,000 名程度を収容できないと、貸出はできないのでしょうか?

A 国際会議は、数百名程度の場合も多くあり、企業のミーティングは 50 名程度の小規模のものもあります。また大規模の国際会議でも、VIP 数十名で開催するレセプションもありますので、貸出は可能です。

Q 貸出料金の設定は、どのようにすればよいのですか?

A 面積 (㎡) や時間単位で料金設定をするなど、施設の方針により一律ではありません。通常は㎡単価を検討したうえで、会場全体の料金を設定します。なお、公的・私的目的によって金額を変動させることもあります。

Q 海外の企業・団体からの問合せ、申込対応には、外国語対応スタッフが必須ですか?

A 利用者が海外の企業・団体であっても、ほとんどの場合、日本の代理店や企画・運営会社を通じて、問合せや申込みをします。そのため、外国語対応のスタッフや通訳の確保は、必須ではありません。

Q エントランスやロビーのようなスペースでもニーズはありますか?

A 施設の方が普段何気なく使用しているエントランス等のスペースが、利用者にとって魅力的であるケースがあります。利用者のニーズや外部からみた施設評価を参考に、魅力的な貸出スペースを開発していくとよいでしょう。

Q 学芸員をはじめ、多くのスタッフを動員しなければならないのでしょうか?

A 基本的に、利用者側が多くの業務を行いますので、施設側は確認・管理業務が主となります。展示物の移動や、展示室に関わるイベントでは、学芸員等の専門知識による確認や連携が必要となります。

Q 展示物は見てもらいたけれど、展示室の貸出には抵抗があるのですが。

A 飲食を伴ったレセプションは、展示室と区切られたエントランスや中庭等で行い、アルコール等が入る前のオープンニング・プログラムとして、展示見学ツアーを実施する等の企画を検討してもよいでしょう。

Q イベントの実施にあたって、どのような業務負荷がありますか?

A イベント後の貸出は、撤去作業が深夜に及び、施設側の立会いが必要となります。そのため、撤収も含めた貸出時間のリミット (例えば 23 時) を設定し、運用していくことで負担を軽減します。休館日も時間設定をして貸し出ししましょう。

Q イベントの設置等で、施設や展示物が汚れたり、壊されたりしないか不安です。

A 施設利用の注意事項等のルールを明文化し、利用者側で徹底してもらうことが重要です。そのうえで、ルールに則ったイベントの内容や運営方法を企画・設計してもらうことで、リスクが低減されます。